

**「新型コロナウイルス感染症を契機とした、ひと・しごとの流れの創出  
～地方創生の3つの視点を踏まえた今後の取組～」に係る事前意見****【NPO 法人いとう子育てネットワーク・ゆう】**

コロナ禍で孤立している家庭が多くなっていました。私たちの行っている家庭訪問型支援は、そのような中でこそ必要とされる取り組みとして、全国的に取り上げられてきました。支援センターやイベントなどに参加できなくて、どこにも出かけられず家庭の中でお子さんと二人きりで過ごすことに行き詰まってしまったと、訪問を利用された方もおります。

課題2での意見ですが、行動の変化の中で、家族と過ごす時間が増えたり、家族と一緒に過ごしたいと思うようになった人が増えたということは、家族で遊ぶ場所があるということも地方の魅力につながると考えます。自然を生かした公園や遊び場が身近にあり、駐車場も完備されていると利用はしやすいです。

伊東市にも公園はたくさんありますが、利用する方が少ないと聞いています。

その原因はどこにあるのか検証し、子育て世代からの意見を取り入れ、改善していくことも必要ではないでしょうか。

海や山・草原といった自然をうまく活用し、伊豆半島に遊びに来たいと思う子育て世代が増えれば移住にもつながると思います。

**【伊豆中央ケアセンター】**

今年の4月より他県から親子で伊豆市に移住して、私どもの施設で働く予定者がおります。どうして伊豆市に決めたのか聞いたところ、無料の宿泊体験ができ地域を知ることができたことと、住居の賃貸代の補助、子育ての環境が良かったからだと話しておりました。どの地域でもそのような補助や仕組みがあると思いますが、そのような情報を簡単に取得できる情報発信がさらに必要だと思いました。

**【熱海市観光協会】**

県全体の中で東部地域への移住者が多く、特に富士市の伸び率は群を抜いており独自の移住施策によるものか興味深いところでもあります。伊豆半島賀茂地域も健闘していることは喜ばしいことと思います。

一方、熱海は観光地であるため一般世帯の移住者は少なく資料を見ても明らかです。また、熱海はリゾートマンションの数が多くおよそ1万件を数えます。そして、コロナ禍によってテレワークが進んでいる現在、マンション市場にも影響を与えていると報道もされました。

移住にはつながらないものの、本拠地は都会において、熱海に格安の中古マンションを求めオフィスとして使い、余暇の時間に温泉を楽しむなど、これまでもそのような二地域居住を楽しむ方がいますが、これからもさらに新たなライフスタイルを始める人も増えるのではないかと思います。当協会としても、その一助となるよう、今後も各方面に観光PRとともに熱海の最新情報を発信していきたいと思っています。

### 【スルガ銀行】

地方創生テレワーク、企業の地方移転の促進、地域における人材支援の充実について、手厚い支援（補助金等）。

東京、神奈川、埼玉、千葉に進出している県内企業に対して同地域で静岡県内の情報を発信し、静岡の魅力をPR。

金融機関として、人材支援（プロ人材拠点・人材マッチング促進事業等との連携）強化していく。

### 【静岡大学 学生 菊地凜】

「学生」を始めとした若い人たちを呼び込むべき。

観光業だけでなく、宿や地元飲食店など地元ならではのお店でインターンを実施する。（若旅のツアーでは宿でのインターンを紹介）

### 【沼津市】

新型コロナウイルス感染症の影響によるテレワークを活用した「転職なき移住」について重要と認識しており、本市では、全国的にもトップクラスと評価されたテレワーク環境や、首都圏への良好な交通アクセス、恵まれた自然・生活環境を活かし、テレワーク移住の推進などに取り組んでいる。今後の課題として、全国の傾向と同様に若い女性の転出超過が見られることから、雇用創出や都市整備など、魅力あるまちづくりの更なる推進が求められている。